善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:059-331-1670
fax:059-332-0733

掲示板法話

弥陀の呼び声を聞き開く時
永遠に消えない灯が私の心に灯る

秋になると報恩講の季節だなあ、と思います。お寺の報恩講と共に、ご門徒の家々でも報恩講をお勤めします。我が地域の門徒さん宅の報恩講は念仏正信偈のお勤めと共に領解文を唱和しますので、それらのコピーされたものを配って唱和する習わしです。

ある時「どうして報恩講の時に、特に領解文を唱和するのでしょう?」と尋ねられました。大変重要なお尋ねでしたので、喜んでお答え致しました。

「報恩講は親鸞聖人の御遺徳を偲びつつ、聖人がお伝え下さった本願念仏のお救いを改めて心に深く味わわせて頂く大変重要な法要です。本願寺中興の祖・蓮如上人が山科本願寺落成の頃からこの領解文を読むように勧められましたので、特に報恩講の時に唱和して浄土真宗の要を心に留めるようにしたのです」と申しました。すると、古い言葉なので理解しにくいですね。現代風の分かりやすい言葉はありませんか」と要請されました。その場では思いつかなかったのですが、「浄土真宗の救いの喜び」という子供用聖典に最近載っている言葉に代えることもできるでしょう。次のようなやさしい言葉で表されています。

「阿弥陀如来の本願は必ず救う、任せよと南無阿弥陀仏のみ名となり、絶えず私に呼びかけます。この呼び声を聞き開き、如来の救いに任す時、永遠(とわ)に消えない灯が私の心に灯ります。如来の大悲に生かされて御恩報謝の喜びに南無阿弥陀仏を称えつつ、真実(まこと)の道を歩みます。この世の縁の尽きる時如来の浄土に生まれては覚りの智慧を頂いてあらゆる命を救います。宗祖親鸞聖人が如来の真実(まこと)を示された浄土真宗のみ教えを共に喜び広めます」。

質問された方にこの御文を見せましたら「これは分かりやすいですね。これから是非唱えましょう」と乗り気になって下さいました。今後は、領解文と共に「浄土真宗の救いの喜び」の言葉も添えて、報恩講をお勤めしたいと思います。

如来様の本願は南無阿弥陀仏の呼び声となって我々にお働き下さり、この呼び声を聞き開いたならば永遠に消えない智慧の灯が我が命の道案内になって下さいます。それは老病死が迫っていることに気づく時、必ず無条件の居場所が与えられ、どんな苦悩をも乗り越えてお浄土に至る道をお念仏の仲間たちと共に乗り越えて生かされて往く道です。報恩講をいよいよ大切にお勤めさせて頂きましょう。

☆行事ご案内☆

◇10月の門信徒会例会

10月20日（日）夜7時半
①報恩講を迎える諸準備
②親鸞聖人の和讃に学ぶ（悲嘆述懐和讃等）
※報恩講お非時の在所分出欠表を回収。一軒に複数人のご参加歓迎

◇『第9回善正寺門徒展』百五銀行阿倉川支店１０月一か月間、幅広い年代の多彩な作品を展示。続いて報恩講にも本堂で展示

◇絵手紙教室　１０月８日（火）１０時庫裏食堂、４７回目
川崎光子先生「下手がいい下手でいい」小杉郵便局にも展示

◇歌声喫茶１０月１７日（第３木）１時、庫裏食堂、９回目

◇キッズサンガ１０月５日（土）４時。毎日夕方５時の鐘撞きは年中無休、４５年間休まず継続、合掌できる子供を育てよう！

◇善正寺ホームページ『三重善正寺』検索、27年間毎月発行の寺報が過去１年分閲覧可。毎日更新ブログ**『住職と坊守のつれづれ日記』**大好評！お寺からの情報発信、１１年間の訪問者総数は約３０万２千人。お悩み相談、仏事や些細な事、何でもOK。大歓迎

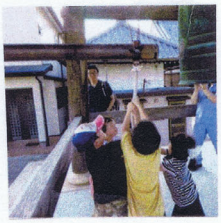
◇『初参式の赤ちゃん・幼児大募集』来年４月１８日（土）１時
三全仏婦主催、千円、地域で子供の誕生と成長を祝福しましょう

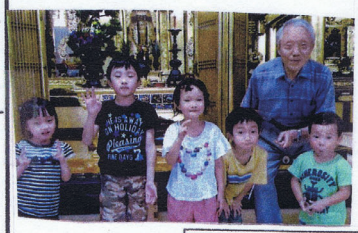
◇一縁会テレホン法話☎０５９－３５４－１４５４で３分間法話

◇『報恩講』11月2日午後1時半、夜6時半。3日午前10時
講師：藤大慶先生（京都るんびに苑理事長・情緒障害児の教育施設）
※お非時接待は２日午前１１時より１２時まで。夜には琴の演奏有。

◇新納骨堂：後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事場所でお困りの方：本堂使用可、駐車場有。寺にご相談を！





☆　写真アラカルト　☆

坊守（ぼうもり）スケッチ

高齢者のたしなみ

一般に高齢者って何歳からだとお考えですか？自分はまだ高齢者ではないと思いたい反面、優遇措置があると高齢者の仲間入りをしたくなるのが普通です。世間では年金がもらえる年齢になったら高齢者とみなします。

では「たしなみ」って何ですか？エチケットとか、礼儀作法という表面的なことではなく、私達の心の持ち方とか、毎日の生きる姿勢を問題にします。

高齢者の間では生前整理の『終活』が流行していますが、私はまだその気にはなれません。子育てや親の介護から抜け出て、やっと自由な時間ができました。今の健康な内にしかできない『老活』に挑戦してみたい心境です。

先日古希を迎えた記念に『七〇歳のたしなみ』（坂東眞理子著・小学館）という本を読みました。坂東氏はかつて『女性の品格』という本がベストセラーになった作家で、昭和女子大学の学長として人間教育にも力を注がれています。その中で私が共感した言葉をいくつか紹介します。

高齢者の《ボケになる三欠く》とは、「義理欠く、恥かく、人情欠く」だそうです。最近は近所や親戚付き合いが煩わしいからと、昔からの冠婚葬祭のご縁をあっさり切って、家族葬などのドライな関係を好む人が多くなりました。何故かしら寂しさが残ります。煩わしいと思っていた人間関係が、実は大切な教えを、次世代に伝えて温かい人間関係を築く《人間教育の場》だったという観点を見落としています。

一方《ボケになる三欠く》の正反対の言葉が「義理堅く、恥を知り、人情厚く」です。これこそが《高齢者のたしなみ》だと坂東氏は説かれています。

フランスの歴史人口学者のエマニュエル・ドット氏が「日本は経済も科学技術も治安もいい。国民は勤勉で食べ物にも恵まれている。それなのに不安を感じている日本人は多い。何故だろうか？」と尋ねられました。

確かに恵まれない貧しい国民からみれば、「日本の年金だけでは老後が不安」というのは贅沢な悩みです。

その原因は、日本人が他人からしてもらうことに慣れて「当たり前」と受け取り、「おかげさま」を忘れた所為かもしれません。私達は《高齢者のたしなみ》として、「おかげさま」の心を忘れずに、日々生きていきたいものです。

寄稿

花火も人生も闇から闇へ　釋妙水

盂蘭盆経唱える小僧合掌す

砂日傘きのこの如く点々と

蝉時雨止みて夕べの鐘を聞く　釋清風

全山に輪唱のごと法師蝉

蝉埋めし子ら合掌の夕べかな

尾を振りて猫ほしいままネコジャラシ

☆若院夫婦の『育自な日記』５８

♪好き好き好き好き好き　好き好き愛してる♪この歌詞をご存知の方はたくさんいらっしゃるでしょう。１９７５～８２年まで放送されていたアニメ『一休さん』の歌です。夏休みに主人と見てから、長男（７）が『一休さん』にはまっているのです。

私が見たのは再放送だったようですが、同じく子どもの頃に見ていた主人は、『一休さん』が寺の小坊主だということに親近感（？）を持っていたそうです。宗派の異なる寺で修行する『一休さん』と、自分が色々と違うことを不思議に思っていたそうです。

『一休さん』といえば、とんちを使って様々な問題を解決する痛快なお話ですが、実は南北朝時代の動乱後の問題の深さゆえの失敗話や、母上様に会えず悩む話などもあり、深刻な時代背景もあるのです。子供の頃には気付かなかった歴史的側面に、改めて気付くと切ないような気持ちになります。

子ども時代の懐かしいものに再会し、嬉しくなるこの気持ちは、過去からの贈り物だといえます。

今、子供達が見聞きし読んでいるものが、未来の智恵を生み出す宝物になるかもしれないと思うと、それをどんどん手渡していきたいと思います。

ホットニュース

◇９月２２日（日）午前、午後小杉町主催『追悼法要』に釈徹宗先生をお迎えしました。著書多数、ＮＰＯ法人施設長、宗教学者、落語法話等、今一番注目されるご講師。遠近多数のご参詣に感謝します。新たな感動、心のお土産を頂戴しました。厚くお礼申し上げます。

◇『第９回百五銀行門徒展』今年も１０月１か月間百五銀行阿倉川支店で開催。皆様の作品を広く募集中。１１月の善正寺報恩講にも本堂へ展示します。

☆お寺で『歌声喫茶』次回（８回目）は１０月１７日（木）午後１時庫裏。第三木曜日。誰でもお気軽にご参加下さい。

◇来年４月１８日（土）１時三全仏婦主催初参式の赤ちゃん・幼児を大募集。

カンパありがとう

赤井淑子様・阿曽香代子様、他匿名様よりお志や葉書等、感謝。

平成３１年度後半・善正寺行事案内

☆報恩講１１月２日（土）午前と夜３日（日）午前のみ。但し２日１１時より正午お非時接待あります。（講師）京都るんびに園理事長・藤大慶先生

２日夜には琴の演奏と歌があります。

☆秋勧進１１月２３日午前８時

☆お内仏報恩講１２／７午前１０時半

☆　編集子より　☆

「善正寺だより」三一〇号をお届けします。◇長い梅雨の後、猛暑、豪雨、台風と荒々しい気象になりつつあります◇十月は秋らしい秋であってほしいとの声◇お供えの新米で盛るお仏飯にふと合掌。

連日紙面には、幼児虐待死事件が掲載されています。その度に児童相談所等の責任が問われますが、一番の責任者は親。その親が子育てを放棄してわが子を暴行死させます。一方では介護が必要な老親を、わが子が殺すという痛ましい事件。親への感謝の気持はないのかと悲しくなります。

「世の中どうなっているの？」家庭が壊れている！昔育ちの人間には理解できない」と嘆く高齢者が多くいます。「親が死んでも涙を流さなかったのに、可愛がっていたペットが死んだら涙が止まらない」と平気で言う現代人。親から確かな愛情を受け取れないまま大人になり、その人が親になって満足な子育てもしないまま年老いてゆく。人間社会の貧の連鎖です。スマホ画面を眺めながら自己中心的な生き方が普通の日常生活。家庭の温もりや地域の助け合いにも無関心で孤独な人生も平気。今一度あなたの人生を、鳥のように俯瞰してみませんか？「果たして誰の助けも借りずに一人で生きてこられたのか？我が力で生きてきたのではなく、皆さんのおかげで生かされてきた」と気づく筈です。小杉町『追悼法要』をお勤めする意味がそこにあります。戦後74年、平和な日本の繁栄は、戦争で犠牲になられた方々の命と引き換えの尊いお導きです。どうか追悼法要を機縁に次の世代の人々にもぜひ人が命に代えて教えて下さった「おかげさまの心」を伝えていきましょう。今の幸せが「当たり前」ではなく「おかげさま」と喜べる人生を共に歩みたいものです。

令和元年十月　　合掌　善正寺坊守拝